

日本パーソナリティ心理学会第16回理事会・第83回常任理事会合同会議議事録

日時：平成19年8月24日18時から19時30分

場所：十勝ガーデンズホテル会議室

出席者：杉山，首藤，浮谷，川野，北村，佐藤，菅原（健介），藤田，渡邊，岡村，高比良，中村，堀毛，松田，小塩，有光，荒川，山崎，加藤

欠席：青柳，向田，手島，繁多，菅原（ますみ），外島，安藤

議長：首藤

事務局：加藤

報告事項

1 会員の異動に関して

以下のような報告がなされた。

会員の種別	平成19年8月20日現在	昨年度会員総会時	増減
名誉会員	5	4	+1
賛助会員	1	1	±0
一般会員	525	502	+23
院生会員	247	213	+34
学生会員	5	5	±0
合計	783	725	+58

平成18年度新入会員：105名（一般会員：29名，院生会員72名，学生会員4名）

平成19年度新入会員：51名（一般会員：17名，院生会員34名）

平成18年度退会者：19名（一般会員：14名，院生会員5名）

平成17年度会費未納に伴う退会者14名

2 各委員会の事業報告および事業計画

(1) 機関誌編集委員会

1) 機関誌「パーソナリティ研究」の編集について

a) 投稿状況および審査状況

平成18年10月から19年8月15日までの投稿数は59本（原著28，資料12，ショートレポート18，展望1）であった。うち54本が電子投稿である。投稿のうち採択9本，不採択2本，取下げ4

本で、残り 44 本が審査中である。過年度投稿分を加えると 47 本が現在審査中となっている。

b) 機関誌の発行状況

15 巻 2 号 (19 年 2 月), 15 巻 3 号 (19 年 6 月) の 2 号刊行した。16 巻 1 号は現在校正中であり、9 月中の刊行を予定している。掲載論文は原著 8 本, 資料 2 本, ショートレポート 5 本の計 15 本である。

2) 電子投稿への一本化について

a) 5 月の常任理事会で、「パーソナリティ研究」への投稿を電子投稿に一本化することが承認された。

b) 電子投稿への一本化, 印刷投稿の廃止は平成 20 (2008) 年 4 月 1 日を予定している。

c) 電子投稿への一本化, 著作権規定の改正などを趣旨とする編集規定の改正を現在進めている。

3) 第 16 期編集委員会について (別表)

a) 任期の終了などにより 6 人の編集委員が退任されます。うち常任編集委員が 3 名, 編集委員が 3 名である。

b) 副編集委員長に村井潤一郎先生 (文京学院大学) が就任する。

c) 新たに 3 人の先生が常任編集委員に就任する。

d) 新たに 5 人の先生が編集委員に就任する。

以上, 承認された。

別表

第 16 期 (2007 年度) 編集委員会名簿および任期

委員長 (2006 年大会 ~ 2009 年大会)

渡邊芳之 帯広畜産大学

副委員長 (2007 年大会 ~ 2009 年大会)

村井潤一郎 文京学院大学

新規 1 年目編集委員 (2007 年大会 ~ 2009 年大会)

加藤弘通 常葉学園大学

金子一史 名古屋大学

木島伸彦 慶應義塾大学

長谷川真理 高千穂大学

山口陽弘 群馬大学

新規 2 年目編集委員 (2006 年大会 ~ 2008 年大会)

内山伊知郎 同志社大学

長谷川博一 東海女子大学
金政祐司 大阪人間科学大学
小林知博 青山学院女子短大
小平英志 名古屋柳城短期大学
前川浩子 金沢学院大学
増田公男 金城学院大学
越智啓太 法政大学
大久保智生 香川大学
須永範明 山梨英和大学
山崎修道 東京大学医学部附属病院
再任1年目編集委員(2007年大会~2009年大会)
加藤司 東洋大学
中村真 川村学園女子大学
中谷素之 大阪大学
大芦治 千葉大学
友田貴子 埼玉工業大学
再任2年目編集委員(2006年大会~2008年大会)
飯長喜一郎 日本女子大学
井沢功一郎 上越教育大学
菅野幸恵 青山学院女子短期大学
宮下敏恵 上越教育大学
関根剛 大分県立看護科学大学
戸田まり 北海道教育大学
外山美樹 鹿屋体育大学
渡辺浪二 フェリス女学院大学
山田尚子 甲南女子大学
新規1年目常任編集委員(2007年大会~2009年大会)
サトウタツヤ 立命館大学
内藤まゆみ 高崎経済大学
永房典之 東京文化短期大学
新規2年目常任編集委員(2006年大会~2008年大会)
有光興記 駒澤大学
宮川充司 椋山女学園大学
中野敬子 跡見学園女子大学
小野寺敦子 目白大学

酒井厚 山梨大学
菅原健介 聖心女子大学
高比良美詠子 メディア教育開発センター
再任1年目常任編集委員(2007年大会~2009年大会)
伊藤順子 宮城教育大学
大木桃代 文教大学
小塩真司 中部大学
再任2年目常任編集委員(2006年大会~2008年大会)
堀毛一也 岩手大学
伊藤哲司 茨城大学
水野邦夫 聖泉大学
向田久美子 清泉女学院大学
大野木裕明 福井大学
今回退任する編集委員
酒井久実代 日本女子体育大学
辻本英夫 大阪市立大学
松田英子 江戸川大学
成田健一 関西学院大学
小田切紀子 東京国際大学
坂本真士 日本大学

(2) 経常的研究交流委員会

1) 第1回サイエンスカフェ開催

「心理学者が問いかける「非暴力で世界に関わる方法」」

日時：2006年12月3日 17時~19時 場所：サロンド・富山房にて実施した。

2) 第16回大会企画

a)「パーソナリティ理解のためのダイナミカルアプローチ：人との関わり・文化・体験学習」

b)「若き心理学者たちの模索：主要な研究法を巡って」

3) シンポジウム企画

「演劇における How to 個性記述 ~パーソナリティの記述のもうひとつのかたちを求めて~」

日時：2007年10月14日 14:00~17:00 場所：東洋大学白山キャンパス6101教室 を予定

講演：宮沢章夫(劇作家・演出家・作家)

委員構成：北村英哉（委員長、東洋大学）、高比良美詠子（副委員長、メディア教育開発センター）、荒川歩（名古屋大学）、今尾真弓（名古屋大学）、尾崎仁美（京都ノートルダム女子大学）、杉森伸吉（東京学芸大学）、友野隆成（同志社大学）、伊藤匡（東京大学）、加藤弘通（常葉学園短期大学）、小林知博（青山学院女子短期大学）、文野洋（東京都立大学）、青林唯（千葉大学）、森本幸子（仙台白百合女子大学）。

（3）広報委員会

1) 委員会の構成

2007年4月に、(旧)広報委員会と(旧)インターネット運用委員会が統合され、広報委員会になった。

委員長：荒川歩（名古屋大学）

(旧)広報委員会のメンバー

東海林麗香（副委員長：東京都立大学）、小堀 修（King's College London）、安藤玲子（お茶の水女子大学）、外山美樹（鹿屋体育大学）、文野 洋（首都大学東京）

(旧)インターネット運用委員会のメンバー

鈴木公啓（東洋大学：副委員長）、大和田智文（専修大学）、友野隆成（同志社大学）、山田幸恵（早稲田大学）、荒川 歩（名古屋大学）、家島明彦（京都大学）、桑村幸恵（愛知学院大学）、松田浩平（文京学院大学）、村上宣寛（富山大学）

2) 前回大会以降の活動報告

ニュースレターの発行(23号・24号)、ウェブページの全面的リニューアル(4月初旬)、定期的な更新コンテンツの増強、ヤングサイコロジストプログラム(8月24日)

3) 2007年度後半の活動計画

ニュースレターの電子化、英語ページの作成

（4）国際交流委員会

1) 海外学会のニュースレターへの記事投稿

Association for Research in Personality (ARP) のweb ニュースレター

“ P: The Online Newsletter for Personality Science ”

(<http://www.personality-arp.org/newsletter01/contents.html>)に記事を投稿。“Reports from Abroad”のコーナーに、日本パーソナリティ心理学会の紹介記事“Greetings from Japan Society of Personality Psychology (JSPP)”が掲載されている。

2) 国際交流委員会企画講習会の開催

2007年9月21日15時より、埼玉大学東京ステーションカレッジにて、Gosling先生によ

る講習会，“Measuring Personality in Humans and Other Animals（人や動物のパーソナリティを測定する方法）”を開催する予定である。

2007 年度委員（敬称略）

首藤敏元（担当常任理事，埼玉大学）

小塩真司（委員長，中部大学）

黒沢香（東洋大学）

坂元章（お茶の水女子大学）

向田久美子（清泉女学院大学）

山形伸二（日本学術振興会特別研究員，慶応大学）

（5）選挙規程委員会

選挙規定の明文化を進めており，今後も活動を継続する。加えて，名誉会員の推挙規定を明文化する。

委員構成

岡村一成（東京富士大学）

向田久美子（清泉女学院大学）

松岡陽子（大同工業大学）

（6）大会活性化委員会

1）大会開催校への支援について

a) 現状について

b) 問題点

運営ノウハウの蓄積と管理，原稿の受け取り・プログラム編成，電話やメールでの問い合わせ対応，発表申込みや論文の投稿（ホームページ），振り込み金額がいろいろ加減，Word の version が違って原稿整理に時間がかかる，pdf を希望するなどいろいろなクレーム，参加申込や発表申込の受付，参加費や発表費の受け入れなど。

c) 対策

大会運営のサポートシステム（マニュアルや運営体制の支援）の構築，学生用の大会マニュアル等の資料の提供，事務手続きのフォーマットを決めて，毎年の開催校はそのフォーマットの開催校名だけを入れ替えるだけにする（電子申込に統一すれば可能）。

2）大会活性化について

a) 大会活性化の目標

開催校ならではの企画（他学会と共催・共同企画，大会内容を充実）

b) 対策

- * 参加者全員がテーマを共有・意識しあい、参加当事者意識が高まる
- * 本や論文で名前を知っている研究者と実際に話しをする
- * 研究者としての自分について深い内省を引き起こす

委員会構成

川野健治委員長

堀毛一也

鹿毛雅治

大久保智生

3 日本心理学諸学会連合に関して

- 1) 本年度の役員人事がなされた。
- 2) 心理学検定について，実施時期（2008年9月14日），資格制度の基本方針，1級・2級，A領域・B領域などについてなどの報告がなされた。別紙資料PDFを事務局で保管している（それぞれの常任理事には配布済みで，要請に伴い事務局で配布する）。

4 「臨床発達心理士」関係

1) 認定運営機構に関して

資格者認定などについて報告がなされた。資格の中身について，本学会として提案したい。本学会とのかかわり合いについて検討の余地がある。

2) 資格認定委員会に関して

中村理事，松田理事が筆記試験を担当し，有光委員が講習会担当している。資格現状，ポイント改正などについて説明がなされた。6月29日の会員数は1799名であり，毎年300名ほど増加している。

3) その他

本学会として，連合にかかわる意義について議論がなされた。今後，資格認定委員会の構成メンバーで話し合い，意見を常任理事会に提案することになった。

5 第15回大会報告

第15回大会の収支決算がなされた。収入2,732,000円，支出2,732,000円であった。

6 その他

なし

審議事項

1 2006年度決算に関して

浮谷常任理事より、報告がなされた。監査報告として、代理として藤田常任理事が監査報告を行った。承認された。

2 2007年度予算に関して

浮谷常任理事より、報告がなされた。予備費がゼロでいいのか(岡村)。予備費と次年度繰越金の数値を書き換え、承認された。

3 第17回大会開催校に関して

次回大会候補校としてお茶の水女子大学(委員長:坂元章)が提案され、承認された。

第19回大会候補地として、慶応大学が提案された。

4 その他

賛助会員入会の促進について、次回の常任理事会で検討することになった。

機関リポジトリについて、検討がなされた。